



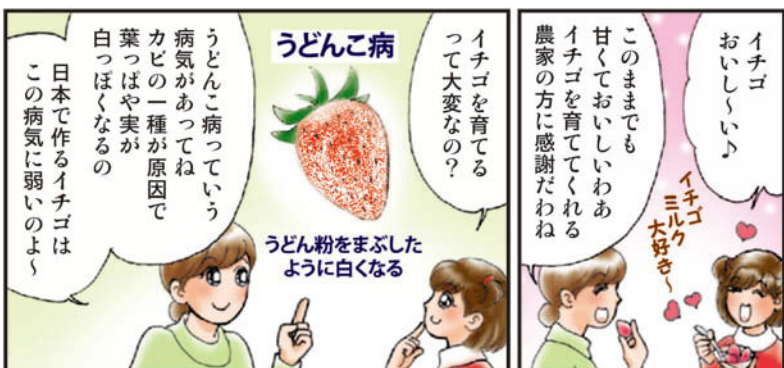
うどんこ病からイチゴを守る新技術



イチゴは人気の高い果物のひとつです。農家は、おいしいイチゴを作るために手間をかけてイチゴを育てていますが、病気の対策には大変苦労しています。

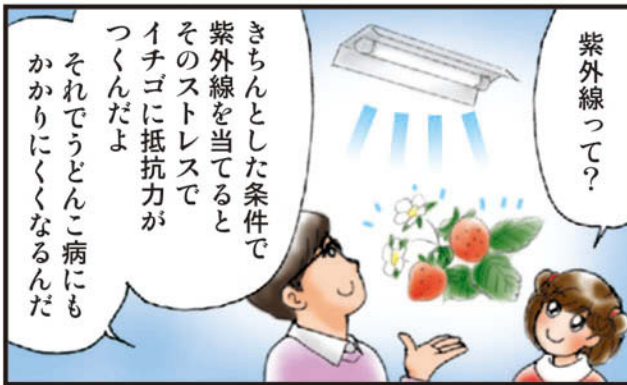
◆イチゴうどんこ病

うどんこ病は、カビの一種の病原菌によって、葉や果実が「うどん粉」をまぶしたように白くなる病気です。葉に発生すると生育が悪くなり、果実に発生すると売れなくなってしまうです。国内のイチゴ品種は大半がうどんこ病に弱く、国内産のイチゴで最も問題となっている病害のひとつです。現在、この病気



の発生を抑えるため、主に農薬が利用されています。農薬は、適正に使われていれば危険なものではありませんが、使用にかかる経費や環境、作業者の健康への配慮から、農薬使用量を減らすことが求められています。

◆光を使ってうどんこ病の発生を抑える新技術



農薬を大幅に減らせる新たな技術として、紫外線（特殊な波長の光）を利用した技術が開発されました。これは、紫外線をイチゴの株に当てることによって病気に対する抵抗力を高め、うどんこ病にかかりにくくする技術です。標準的な照射方法では、イチゴの株から約2メートルの高さで午前9時〜午後3時までの6時間照射を行い、収穫が終了するまで毎日実施します。この処理を行うと、うどんこ病の発生が抑えられるだけでなく、イチゴの果実の着色が良くなり、さらに甘さも増すなどの効果も確認されています。